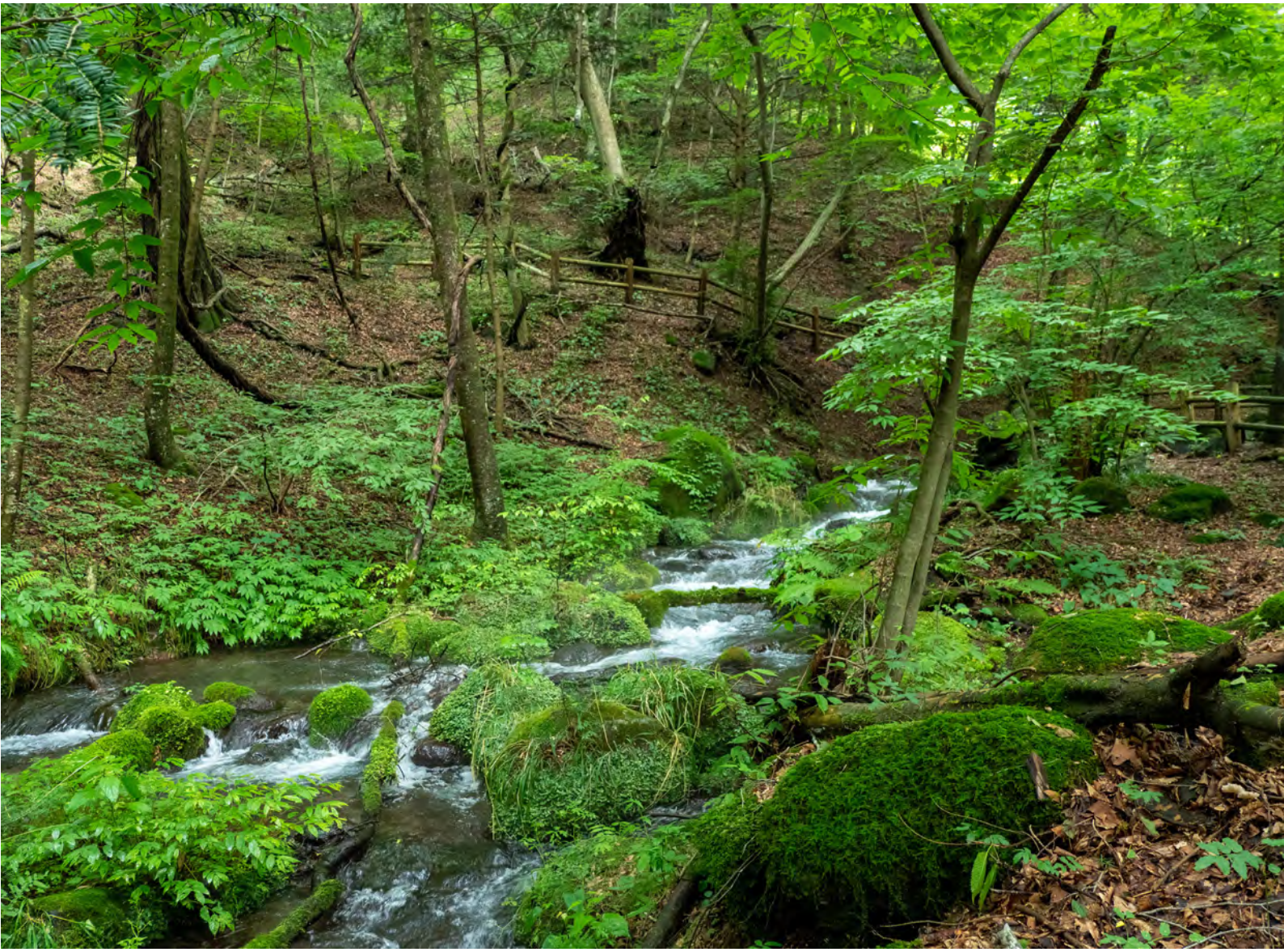


平岡織染株式会社

Environmental report2021

環境報告書 2021

HIRAOKA

目 次

１．ごあいさつ 3

２．会社概要 4

３．編集方針 4

４．環境基本方針 5

５．環境中期計画 6

６．環境保全活動の歩み 7

７．環境負荷の全体像 8

【事業活動における環境負荷】＊2020年度実績

８．環境負荷低減への取り組み 9

【PRTR 対象物質への取り組み】

【大気汚染防止への取り組み】

【水質汚濁防止への取り組み】

【二酸化炭素排出量削減への取り組み】

【産業廃棄物削減への取り組み】

９．環境対応製品 12

【抗ウイルスターポリンシリーズ】

1．ごあいさつ

「一枚布」に込めた想い

当社は、繊維基材と高分子材料を独自の配合技術と加工技術を組み合わせて一体化させ、軽量で丈夫な「布」等、多種多様な「布」（膜材料製品）を作り提供し続けてきました。

そこには、社会の一部として、繊維産業界において、お客様からのニーズにお応えできる製品をお届けするために当社が一枚岩となって、一致団結・相互扶助してきた100年以上に及ぶ挑戦と試行錯誤を積み重ねた歴史があります。

当社の膜材料製品の一反・一枚には、これらすべての歴史が詰まっています。「一枚布」は、その想いを込めた当社の造語です。

さまざまな時代のニーズ、お客様のご要望にお応えし、未来のインフラ膜材料を創作し続けながら、地球への環境負荷軽減と循環型で持続可能な、人と環境にやさしい社会の創造という大きな課題にも挑戦し、私たちは次の100年に向けて企業活動を続けてまいります。

代表取締役社長　平岡 利文

2．会社概要

名　　称	平岡織染株式会社
社　　長	平岡利文
資 本 金	48, 438千円
売 上 高	6, 926, 187千円（2021年3月期）
創　　業	明治35年8月（1902年）
会社設立	昭和10年2月（1935年）
本　　社	東京
支　　店	大阪
事 業 所	草加事業所（埼玉県）、滋賀ターポリン工場*（滋賀県）

* ターポリンは以下（タ）に省略して記載する。

3．編集方針

【報告書の対象期間】

対象期間　2020年4月1日～2021年3月31日

【報告書の対象範囲】

本社、支店、2事業所（草加事業所、滋賀（タ）工場）

４．環境基本方針

平岡織染株式会社は、繊維素材をベースに様々な合成樹脂と組み合わせることで、機能的で使いやすい製品を製造、提供しております。機能性や特性を重視する建築、土木、車輌といった産業分野やデザイン性や嗜好性が求められる店舗、スポーツ、レジャー用品など、幅広い分野でご利用いただいております。

私たちは、企業が成長し続けるためには、企業活動に伴って発生する環境への負荷を最小限に留めることが最も重要であることを認識しております。

事業活動、製品、サービスから生じる環境への負荷を的確に捉え、技術的そして経済的に可能な範囲で、目的・目標を設定し、汚染の予防の継続的な維持・改善に努め、環境の保全と向上を図るため、次の施策を推進します。

1. 事業活動は環境、健康、安全に留意し、汚染予防に最善を尽くします。特に、製品の製造に伴い使用する化学物質等の取り扱い及び管理の適正化に努めます。
2. 環境に関する各条令を遵守するとともに、自主基準、規定などを整備し、管理の一層の向上に努めます。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の減量化などに積極的に取り組みます。
4. 環境に配慮した研究、開発、設計を行います。
5. 社員に環境教育を実施し、環境保全意識の向上に努めます。
6. 「環境基本方針」は、関連協力会社に周知すると共に外部からの要求に応じて提供します。

２０２１年２月導入　滋賀（タ）　蒸気貫流ボイラー

5．環境中期計画

弊社では、第三次中期計画の未達成状況と、近年の弊社における生産環境を勘案し、2018年7月に第四次の中期計画を策定。2017年度の実績データを基準として、達成年度を2020年度と定め、次の二つの改善目標の掲げて、取り組んで参りました。2020年度の結果は、コロナ禍による生産数量の大幅減に伴うマイナス影響が余りにも大きく、残念ながら何れの目標も達成することが出来ませんでした。

【達成目標年度：2020年度】
二酸化炭素原単位排出量：3%削減　⇒　6.5% 増加 (目標未達成)
産業廃棄物原単位処分量：3%削減　⇒　6.5% 増加 (目標未達成)

尚、草加事業所で2020年度からスタートした埼玉県地球温暖化対策推進第三次計画期間（2020～2024年度）における目標値は、二酸化炭素基準排出量（2002～2004年度の平均値5，833t−CO2）の20%削減です。2020年度の実績は39．1%の削減となり、計画期間初年度は目標達成することができました。引き続き二酸化炭素排出量の削減に努めて参ります。

２０１９年３月導入　ガスコージェネレーション

6．環境保全活動の歩み

2002.12	滋賀（タ）工場が滋賀県の「大気環境負荷低減計画実施事業場」証明書受理
2003.03	草加事業所が埼玉県の「彩の国エコアップ宣言書」受理
2004.10	草加事業所にガスコージェネレーション（550kW）を導入設置、稼働開始
2006.08	草加事業所に蓄熱式排ガス浄化装置（150m³/分）を導入設置、稼働開始 ※ VOC 大気放出量の大幅削減に貢献
2008.11	滋賀（タ）工場の重油焚きボイラー 3 基を高効率のガス焚きボイラーに更新し、同工場の重油使用を全廃
2010.12	草加事業所の重油焚きボイラー 2 基を高効率のガス焚きボイラーに更新し、全社の重油使用を全廃
2012.05	滋賀（タ）工場、湿式電気集塵機（排煙処理装置）追加設置・稼動開始
2013.05	滋賀（タ）工場、脱臭装置新規設置・稼動開始
2014.10	草加事業所の蛍光灯全てを LED タイプにリニューアル開始
2015.04	草加事業所に高効率型ロールコーターを導入設置、本格稼働開始
2016.08	草加事業所の蒸気ボイラー (ガス焚き) を高効率型に更新、稼働開始
2018.03	滋賀（タ）工場の帆布熱処理炉を熱媒加熱式高効率型（臭気低減タイプ）に改修
2018.07	滋賀（タ）工場の照明器具全てを LED タイプにリニューアル開始
2018.09	草加事業所の排水処理施設を最新型加圧凝集浮上設備へ更新
2019.01	滋賀（タ）工場の熱媒ボイラー (ガス焚き) を高効率型に更新、稼働開始
2019.03	草加事業所のガスコージェネレーション（550kW）を 700kW タイプに更新、稼働開始
2020.02	滋賀（タ）工場の高圧蒸気ボイラー（ガス炊き）を高効率型に更新、稼働開始
2021.02	滋賀（タ）工場の蒸気ボイラー (ガス焚き)2 基を高効率型に更新、稼働開始
2021.03	草加事業所および滋賀（タ）工場において、照明器具の LED タイプ切換え計画分の工事を全て完了

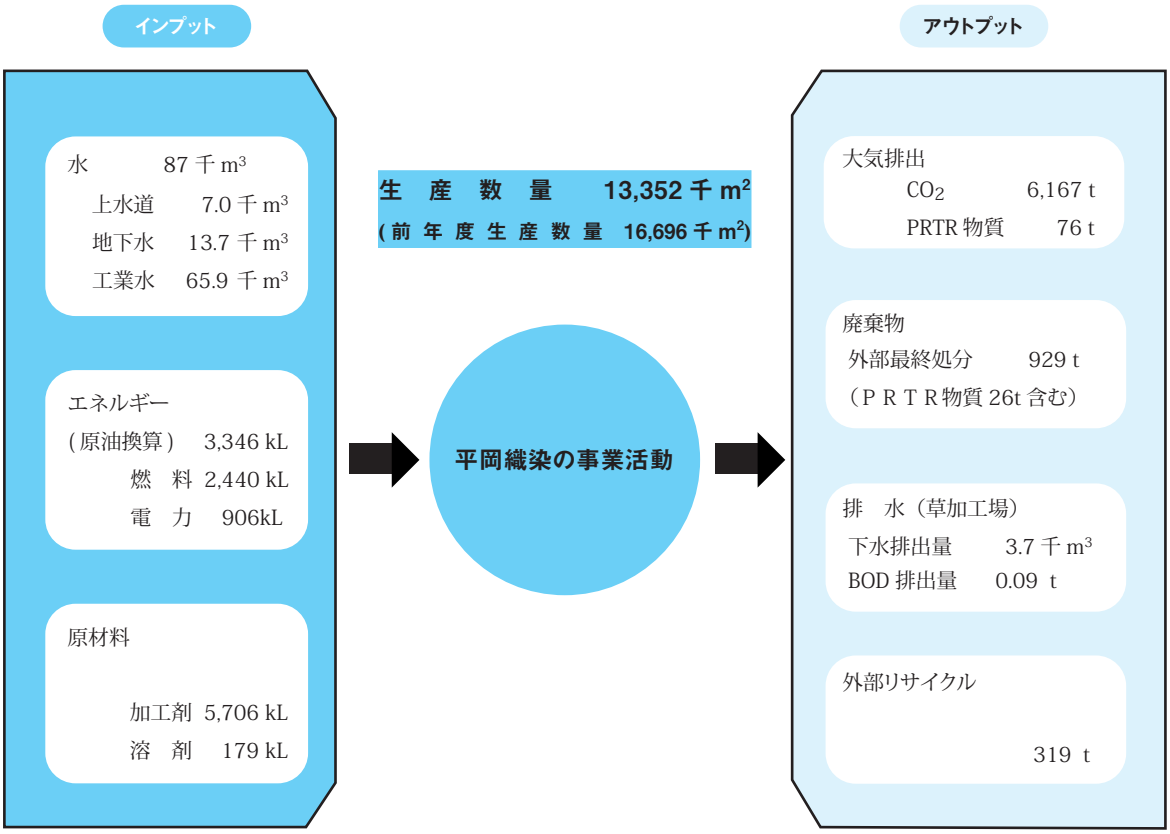
２０１８年９月導入　最新型加圧凝集浮上設備

7．環境負荷の全体像

【事業活動における環境負荷】＊2020年度実績

弊社は、その事業活動において排ガス、排水、廃棄物等、様々な環境負荷の実態を正確に把握し、低減に努めています。

2020年度の事業活動におけるインプットとアウトプットは、下図のとおりとなっています。



８．環境負荷低減への取り組み

【PRTR 対象物質への取り組み】

2020年度は前年度と比較して排出量が20．2%減少し、移動量も20．5%減少しました。特に移動量が大幅に減少した主な要因として、コロナ禍のため生産数量 (前年度比20%減) に比例して、PRTR対象物質使用量も21．8%減少したことが挙げられます。

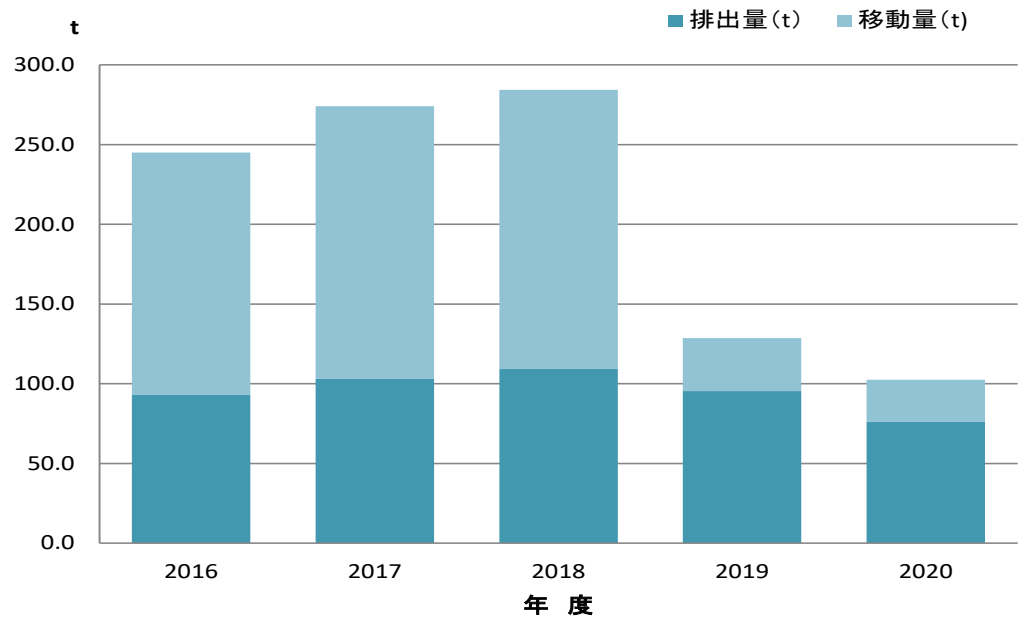


図８－１　PRTR 届け出排出量

【大気汚染防止への取り組み】

SOx（硫黄酸化物）排出量は、ボイラー燃料の完全ガス化 (A 重油全廃) により、2011年1月からゼロとなっています。

ばいじん排出量も、都市ガスへの燃料転換による効果で、極めて低い水準で推移しています。

【水質汚濁防止への取り組み】

工場排水を行っているのは、染色を行っている草加事業所のみです。工場排水を行っていない滋賀（タ）工場は水質汚濁防止法には該当しません。従って、対象となる草加事業所のみ水質汚濁防止への取り組みを行っております。

2018年度は染色排水量が激減したことと、排水処理施設の最新型加圧凝集浮上設備への更新により、BO D排出量が極端に減少しています。今後も草加市下水道条例で定める下水排除基準に適合した水質維持に努めて参ります。

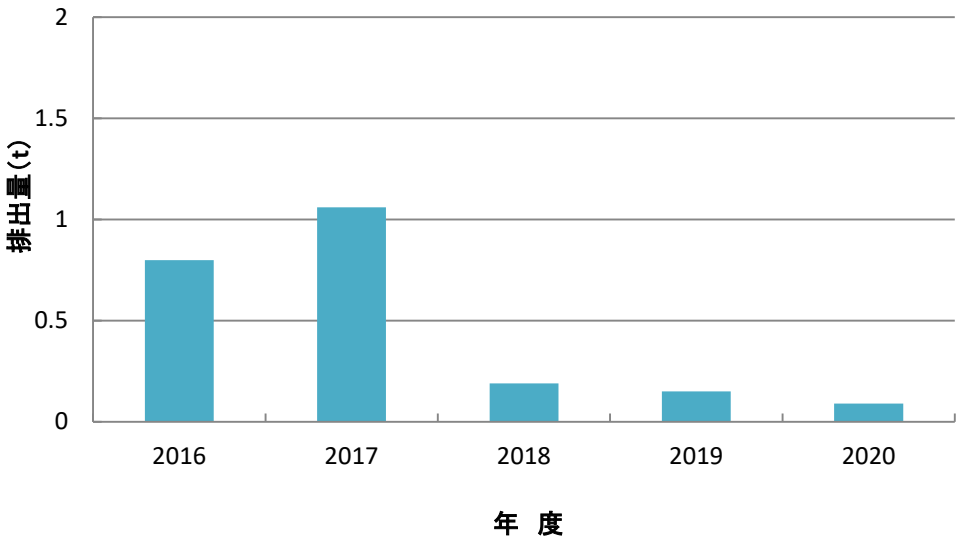
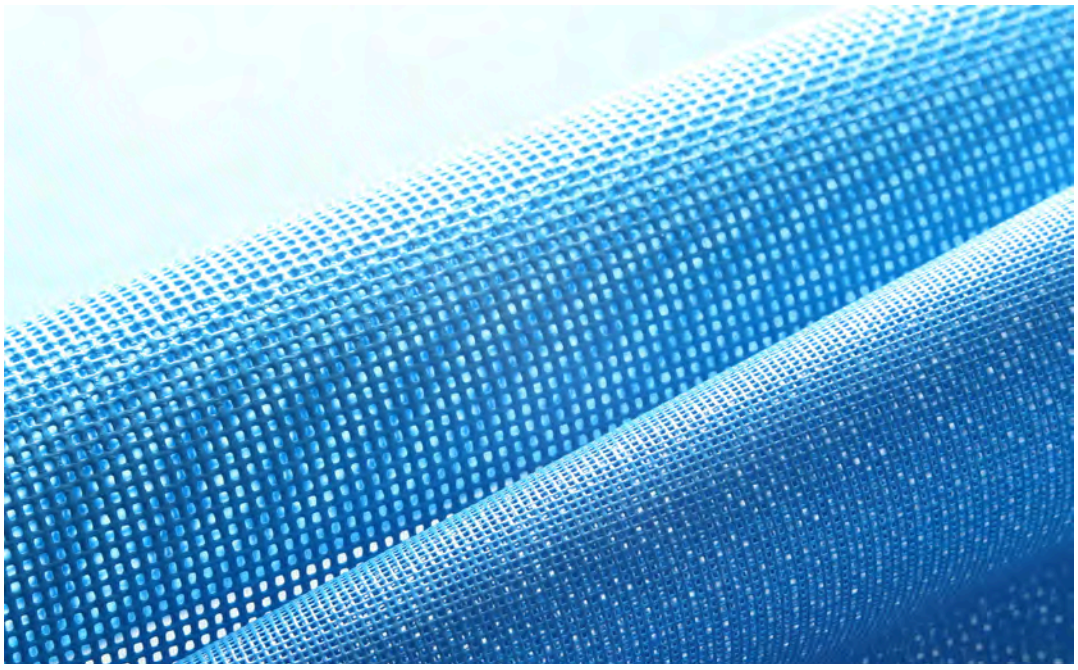


図８－２　BOD 排出量



【二酸化炭素排出量削減への取り組み】

2020年度のCO2排出量は、前年度比14．9%減の6,167t-CO2 でした。また、環境中期計画の「原単位排出量(生産数量当たり)について、2020年度までに2017年度比3%削減」に対しては、6．5%増となり目標達成出来ず、前年度比でも6．4%増で原単位では大幅に悪化しました。悪化の主な要因は、コロナ禍での生産数量の大幅減に伴う生産効率の低下によるものですが、企業としては高効率ボイラーの導入や照明のLED化など、着実に省エネを推進しています。今後も成果重視の省エネテーマを模索して、CO_2排出量の削減に取り組んで参ります。

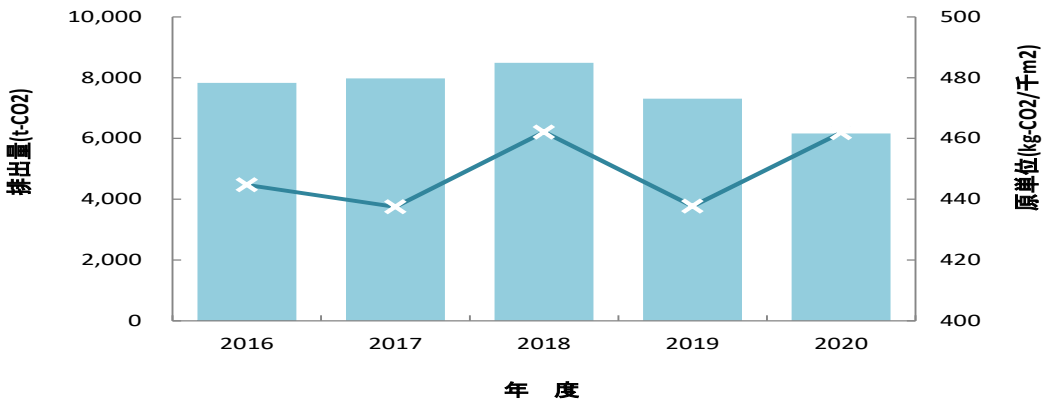


図８－３　二酸化炭素排出量

【産業廃棄物削減への取り組み】

2020年度の産廃処分量は929t で前年度比12．1%減少しました。生産数量が前年度比で20%減少したことが主な要因です。

一方、目標40%以上のリサイクル率は前年度より悪化し、25．6%と目標を大きく下回りました。ここ数年のリサイクル業者の廃業、その上、新規業者の開拓もできず、対象品の回収がなくなったことが大きく起因しています。

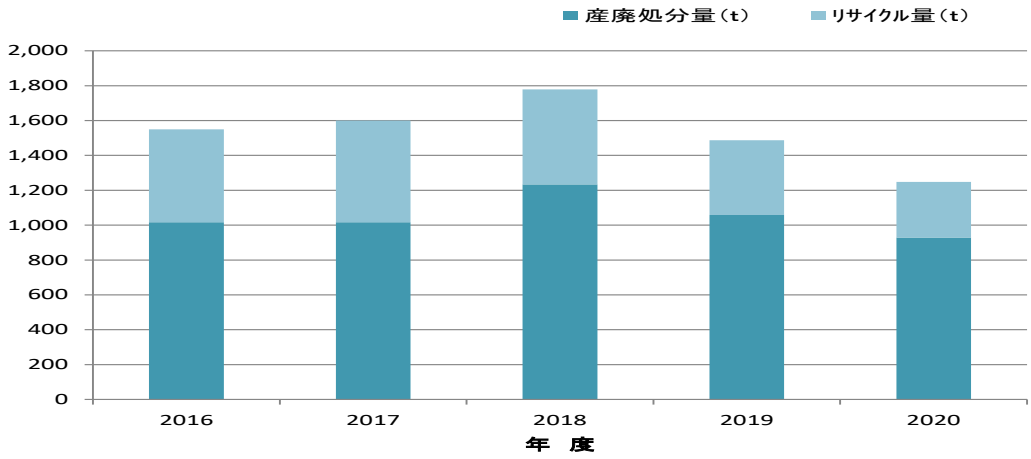


図８－４　産業廃棄物量

9．環境対応製品

抗菌・抗ウイルスターポリン

ターポキャンバス® 4400VC

用途 カーテン、間仕切り、フロアシート、横幕、各種カバー類、袋物

材質 基布：ポリエステル
樹脂：ポリ塩化ビニル（PVC）

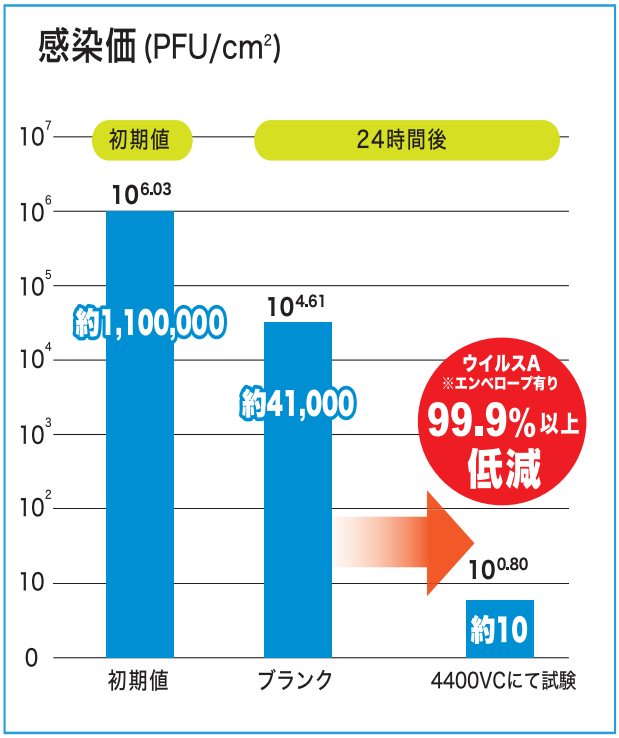
（特　徴）

- ○ 抗ウイルス性能
- ○ 抗菌性能
- ○ 溶着性能
- ○ 防炎性
- ○ RoHS ２指令適合品

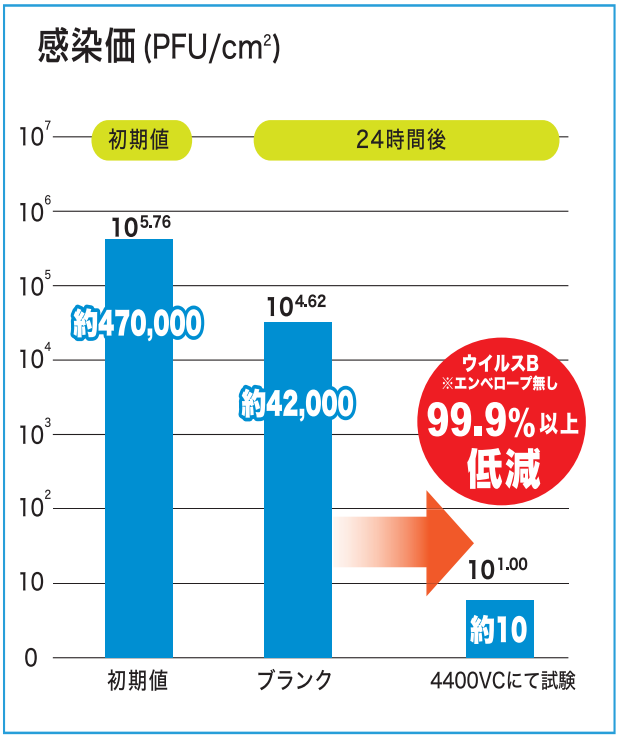
抗ウイルス性能試験

・試験方法：ISO 21702:2019
・試験機関：一般財団法人 ニッセンケン品質評価センター
※数値は測定値であり、保証値ではありません。

ウイルスA（エンベロープ有り）



ウイルスB（エンベロープ無し）



薬機法（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律）によりウイルス名が表記できないためウイルスA、ウイルスBと記載

抗ウイルスについて

・全てのウイルスに対して効果のあるものではありません。
・本製品は、病気の治療や予防を目的とするものではありません。また、医療品や医療機器などの医療を目的としたものではありません。

抗菌・抗ウイルスターポリン

クリスタルターポ® CT-1030-9

用途 カーテン、間仕切り、各種カバー

材質 基布：ポリエステル100%
樹脂：ポリ塩化ビニル（PVC）

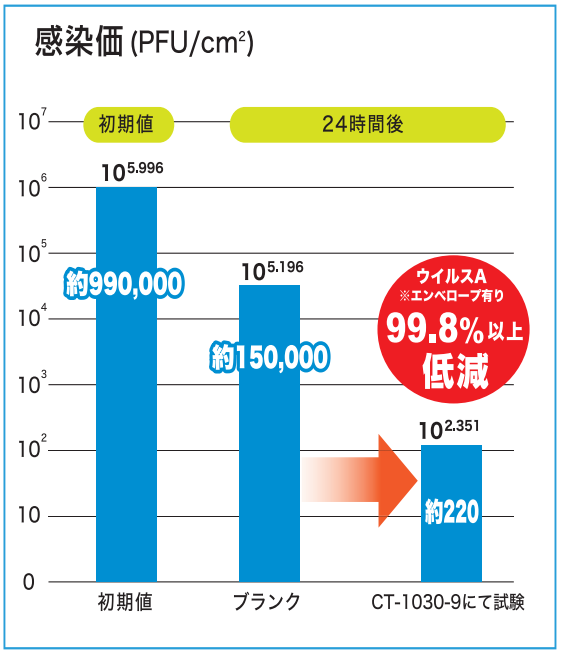
（特　徴）

- ○ 抗ウイルス性能
- ○ 抗菌性能
- ○ 帯電防止
- ○ 溶着性能
- ○ 防炎性
- ○ RoHS 2指令適合品

抗ウイルス性能試験

・試験方法：ISO 21702:2019
・試験機関：一般財団法人 ニッセンケン品質評価センター
※数値は測定値であり、保証値ではありません。

ウイルスA（エンベロープ有り）



薬機法（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律）によりウイルス名が表記できないためウイルスAと記載

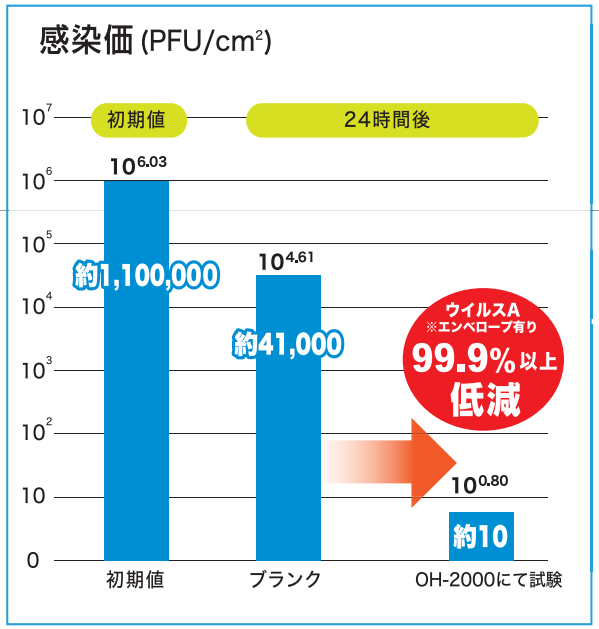
抗ウイルスについて

・全てのウイルスに対して効果のあるものではありません。
・本製品は、病気の治療や予防を目的とするものではありません。また、医療品や医療機器などの医療を目的としたものではありません。

※クリスタルターポ®CT-1030-9は屋内用防炎間仕切りシートとして開発された製品ですので、ご使用の際は注意願います。
※タック防止のためスターチ（でんぷん）を表面に塗布しております。使用上問題があるような場合には事前に拭き取って頂けますようお願い致します。

抗ウイルス性能ターポリン

エコターポ® 非塩ビ カラーシリーズ



・試験方法：ISO 21702:2019
・試験機関：一般財団法人 ニッセンケン品質評価センター
※数値は測定値であり、保証値ではありません。

特 徴

■ 抗ウイルス
・付着したウイルス※を99.9%以上低減します。
※ウイルスA（エンベロープ有り）

■ 軽量
・塩ビシートに比べ軽量。（当社比約30%軽量）

■ 食品衛生法（平成18年厚生労働省告示201号）適合品

■ RoHS2指令適合品

■ 環境
・燃えた時にダイオキシンが発生する原因となる材料を含んでいません。

抗ウイルスについて

・上記試験はウイルスA(エンベロープ有り)についてのデータです。
・全てのウイルスに対して効果のあるものではありません。
・本製品は、病気の治療や予防を目的とするものではありません。また、医療品や医療機器などの医療を目的としたものではありません。

用途 各種カバー類、袋物、パイプテント等　**材質** 基布:ポリエステル100%　樹脂 :ポリオレフィン系

OH-1000（非塩ビ　非防炎タイプ）
ホワイト

OH-2000（非塩ビ　非防炎タイプ）
ホワイト　レッド　ブルー　グリーン　イエロー　ブラック

※上記の色見本は、出荷時の現物の色相と異なります。予めご了承ください。
※製品ラインナップにはシルバーがありますが、対象外です。